令和４年度研究推進計画

学 校 名　江田島市立大柿中学校
学校長名　　八　川　慎　一

１　研究主題，研究内容・方法等について

（１）研究主題　主体的に学ぶ生徒の育成～深い学びに向かう発問の工夫～

（２）主題設定の理由

本中学校区では，一昨年度まで広島県教育委員会から学力向上推進地域事業の指定を受け，昨年度は研究テーマを「他者と協働し，主体的に学び続ける児童生徒の育成」と定め，小中が連携し研究を推進してきた。特に，協働的な学びの中でめざす姿を教員間で共有したり，生徒の思考の深まりを意識した授業づくりを目指したりした。

昨年度の学力調査・生徒質問紙の結果については，以下のとおりである。

１年生	本校	全国	目標値
国語	６５．１％	６１．４％	５８．５％
社会	６２．４％	５７．３％	５７．０％
数学	５８．３％	５７．０％	６０．０％
理科	５５．９％	５８．４％	５８．０％
英語	５４．６％	５５．２％	５７．３％

２年生	本校	全国	目標値
国語	６６．５％	６２．０％	５９．１％
社会	６５．４％	５８．５％	５８．３％
数学	５４．２％	５５．９％	５６．９％
理科	４１．７％	５９．１％	５８．５％
英語	４４．３％	４６．９％	５０．９％

質問項目	大柿中学校	
	７月	１２月
自ら進んで自分の考えを発表する。	５３％	４５％
根拠をもとに，相手に分かりやすく考えを伝えている。	６８％	６４％
他者の考えを受け入れ，自分の考えを深めている。	８５％	８４％

意識調査を見ると，協働的な学びの中で考えを深めたり広げたりすることができていると感じている生徒が多い一方で，協働的な学びの中で，自分の考えを伝えるものの，根拠が明確になっていない場面が多かった。また，自分の考えをもっているが，失敗を恐れて全体の場で発表することが苦手と感じる生徒も多い。

学力調査を見ると，科目によって大きく全国平均を下回る科目があった。協働的な学習の中で他者の考えを受け入れ，自分の考えを深める意識は８割を超えており高いが，学力が定着していないというのが現状である。

そこで本研究では，研究主題の「主体的に学ぶ」姿を，学習課題に対し自ら問いをもつ，問いに対して自分の考えをもつ，協働的な学びの中で，自分の意見を述べるだけでなく，批判的思考をもって他者の意見を捉え，よりよい意見にするために粘り強く話し合うといった姿，自らの学びについて振り返り，学びを調整しようとする姿であると捉えるとする。家庭学習では引き続き自主学習ノートに取り組ませるが，その過程において授業の学習内容を振り返り，自己の弱点等を把握し克服しようとする姿も「主体的に学ぶ」姿としたい。それらの姿の実現を目指すために，各教科（５教科）で次のような授業づくりの工夫を行う。

国語	単元の導入では生徒の疑問から学習計画を立てさせる。協働的な学びでは，相手の意見を聞いた後に，「なぜ～と言えるのか。」「もし～ならばどうなるか。」など批判的思考で相手の意見を捉えさせ，建設的な話合いをさせる。
社会	身に付けさせたい力を確実に定着させるために，単元づくりの工夫をする。協働的な学びでは，思考過程の説明の後，「本当にこの考え方でよいのか。」「この場面での考え方は他の課題でもあてはまるのか。」という話し合いをする。授業の終末では，活用問題の実施を徹底し，学びの定着度を確認する。
数学	身近な事象を課題として取り上げ，単元を通じて学びの必然性をもたせる。協働的な学びの場面では，計算過程や思考過程の説明の後「なぜ，この考え方なのか。」「この考え方よりも別の考え方の方がよいのでは。」「もし条件が～ならばどうなるのか。」ということまで話し合わせる。授業の終末では，評価問題（または振り返り）を実施し，学びの定着度を確認する。
理科	単元の中で課題を設定させ，説明活動に取り組ませる。説明において図と短い文章や科学用語を使わせる工夫をさせ，相手の説明を，「もし～ならばどうなるか。」など批判的思考をもって聞かせ，建設的な話合いをさせる。
英語	各単元のゴールとして課題を設定する。課題は，必然性があるもの，技能統合的であるものとする。課題達成に向けて，学びを自己調整するため，学習計画を立てさせる。また，複数ではないと達成できない課題を仕組むことで，技能の相乗的向上を目指す。

（３）研究仮説

発問を工夫し思考が深まる授業を実践すれば，主体的に学ぶ生徒が育成できるとともに学力が向上するであろう。

（４）本校で育成を目指す資質・能力

Ⓐ．課題発見・解決力
Ｂ．コミュニケーション力
Ｃ．協調性
Ⓓ．高い志

特に今年度はＡ．課題発見・解決力のうち「自分の考えとその理由を明確にして，相手にわかりやすく伝わるように発表を工夫している」，Ｄ．高い志のうち「目標達成が困難な状況の中でも，結果を恐れず前向きにチャレンジし，努力し続けようとしている」を重視する。

（５）具体的な活動

①学力調査の分析を行い，生徒の課題を把握する。

・全国学力・学習状況調査や江田島市学力調査等における誤答分析を行い，生徒の課題を把握する。
・質問紙調査などの結果を基に，生徒の学習意欲や家庭学習の状況を把握する。
・習得が不十分な設問について，評価問題の実施・分析を行い，指導の改善に生かす。
・学力に課題が大きい生徒の個別指導計画を作成し，生徒一人一人の課題に応じた組織的，計画的，継続的な指導を行う。
・学力調査，評価問題，授業記録，生徒の記述や作品等により，手立ての有効性を検証する。

② 授業規律の徹底

・挙手，返事，姿勢などの学習規律の徹底を図り，集中して授業に臨む姿勢をつくる。

・生徒自身に行動三原則を意識させる指導を行う。（「時を守り」「場を清め」「礼を正す」）

③ 基礎・基本の徹底

・家庭学習習慣を確立する。（自主学習ノート，確認テスト）

・学習の足場の充実を図る。（朝読書，補充学習）

・ＩＣＴ活用の研究を図る。

④ 授業改善の推進

・単元の指導計画と評価の工夫を図る。（各時間に目指す姿の明確化，相互の授業参観）

・「目標（めあて）と振り返り」の一体化を図る。

・「協働的な学びにより思考を深める」という視点で，授業改善を図る。

・自学の推進

⑤ 研究授業の実施

・小学校との連携によって組織的に学力向上を推進する。

・研究授業を通して，自校の実践の成果・課題を明らかにする。

⑥ ＳＴＯＰ９による学習時間の確保

・午後９時以降は電子メディアの使用をやめるＳＴＯＰ９を実施し，主体的な家庭学習に向かう生活習慣をつくる。

２ 検証

（１）検証の指標

①生徒の学力の変容

・全国学力・学習状況調査，江田島市学力調査

・全国学力・学習状況調査，江田島市学力調査の各生徒の得点の推移

・全国学力・学習状況調査，江田島市学力調査，評価問題，授業記録，生徒の作品等における学力向上の成果及び課題の具体

②生徒の意識の変容

・生徒の意識調査・自己評価の結果

・生徒の家庭学習の状況

（２）検証計画

時期	内容
４月	全国学力・学習状況調査（第３学年）
６月	広島県学習意識調査
７月	生徒質問紙（全学年）
12月	生徒質問紙（全学年）
１月	江田島市学力調査（第１・２学年）
２月	江田島市学力調査の結果の分析

３　校内研修計画（案）

時期		研究推進に係る内容の研修	指導・助言（予定）
6	7（火），8（水）	研究授業（数学　西岡教諭）	広島県西部教育事務所
9	13（火），14（水）	研究授業（社会　上村教諭）	広島県西部教育事務所
10	12（水），14（金）	研究授業（英語　藤井教諭）	広島県西部教育事務所
1	16（月），17（火），18（水）	研究授業 （国語　安達あるいは呉田教諭）	広島県西部教育事務所
1	23（月），24（火），25（水）	研究授業（理科　開内教諭）	広島県西部教育事務所